

しており、2号土坑より出土した鉄製壺鏡は県内唯一の出土品です。7世紀後半に築造された西原1号墳（上唐子）は、墳形はほぼとどめていないような状況でしたが、方形に近い形状でした。主体部は緑泥片岩と河原石を用いて構築された複室構造の胴張りがある横穴式石室です。出土遺物は鉄鏃、銅鏡、装飾付大刀です。この古墳は小規模ながら、出土した銅鏡や装飾付大刀は比企地方のこの時期の古墳から出土する遺物としては逸品で畿内の勢力を構成する有力豪族との結びつきがあったものと考えられます。

東松山市では古墳時代前期に前方後方墳、前方後円墳が展開しますが、中期以降は大型古墳が築造されなくなります。このことから、大型古墳を築造することのできる勢力が市域から移動したと考えることができます。しかしながら、この後に市域に展開した古墳群からは埼玉県内では他にあまり見られない様々な遺物が出土しており、それなりに力を持った豪族の存在があったことを示しています。

引用・参考文献

埼玉県教育委員会 1994『埼玉県古墳詳細分布調査報告書』

塩野 博 2004『埼玉の古墳 比企・秩父』さきたま出版会

埼玉県立さきたま史跡の博物館 2010『「稲荷山」出現以前の古墳』

埼玉県立さきたま史跡の博物館 2016『埼玉の古墳—比企・入間—』

若狭 徹 2017『古代の東国① 前方後円墳と東国社会 古墳時代』吉川弘文館

東松山市教育委員会 2015『市制施行60周年記念事業 シンポジウム 三角縁神獣鏡と3～4世紀の東松山』



さんかくぶちしんじゅうきょう
三角縁神獣鏡（高坂古墳群）



よこはたびしょうどめたんこう
横板板鋳留短甲（東耕地3号墳）



てっせいつぼあぶみ
鉄製壺鏡（古凍古墳群）



どうわん
銅鏡（西原1号墳）